

未来に輝け とぎつつ子海外派遣事業報告書



Special Memories

25th, Mar, 2026 – 1st, Apr, 2026

- Seattle, America
- Vancouver, Canada
- White Rock, Canada

1	派遣生徒・引率者名簿	1
2	事業の目的・派遣先概要	2
3	派遣行程	3～4
4	事前研修	5
5	派遣生徒・引率者写真	6
6	旅の思い出	7～19
7	派遣生徒報告書	20～29

派遣生徒

Students

北野	蒼馬
北野	颯人
吉良	優希
田中	丈一朗
堂尾	莉愛
堀川	好杏
松田	ひなた
丸山	楓恵
造酒	あゆみ
矢野	優里

引率者

Accompanying

山本	雄一郎	(時津町)	教育総務課)
水町	舞愛	(時津町)	社会教育課)

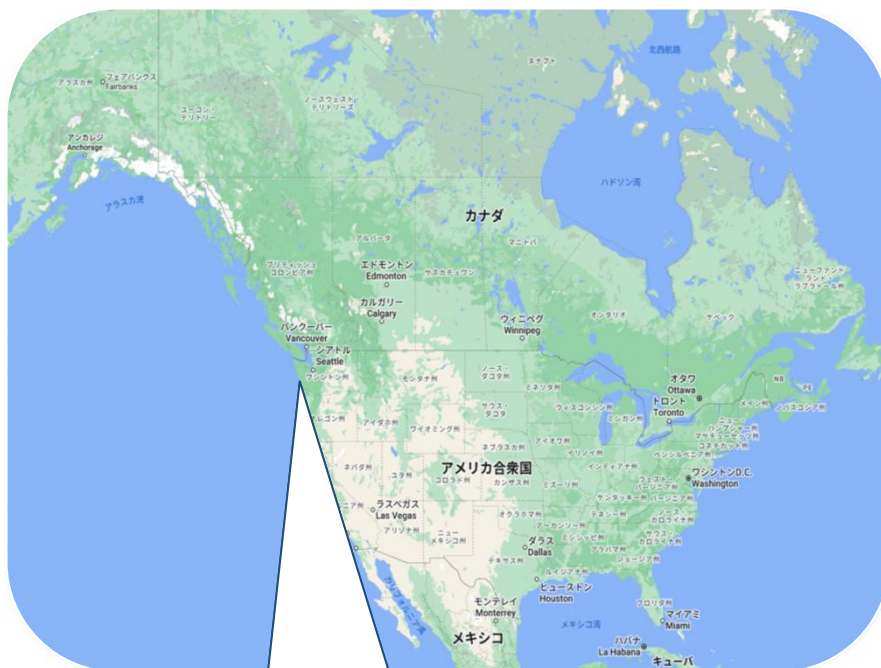
事業の目的

Purpose

外国の文化をはじめ、風土や習慣などを自らの目で確かめ、自らの肌で感じ、国際的視野を広めさせるとともに、語学力に対する学習意欲の醸成を図ることを目的として、未来を担う時津町の中学1年生を海外に派遣する事業です。

派遣事業の概要

Summary



アメリカ

ワシントン州

州人口 約7,060,000人

公用語 英語

総面積 約172,300km²(日本の約半分)

州都 オリンピア(人口42,000人)

最大の都市 シアトル(人口652,000人)

産業 貿易、航空産業、林業、農業、水産業、ハイテク(IT・医療機器・計測機器)などが盛んです。



カナダ

ブリティッシュ・コロンビア州(BC)

人口 約4,500,000人

公用語 英語

総面積 約945,000km²(日本の約2.5倍)

州都 ヴィクトリア
(人口78,000人)

最大の都市 バンクーバー
(人口640,000人)

産業 天然資源関連事業が主要産業
(水産業、鉱物、水力、林業)
近年は観光、ハイテク産業、
映画関連事業が育っています。

月日	地名	現地時間	スケジュール
3/25 (水)	時津町役場 時津町役場発 空港内レストラン 福岡空港 発 仁川空港 着 仁川空港 発 シアトル・ タコマ空港 着 シアトル (アメリカ)	8:45 9:20 12:30 13:45 15:05 16:10 10:00 18:00	<p>壮行会 専用車にて福岡空港へ 福岡空港内にて昼食 出国手続き後ソウル(仁川)空港へ(所要時間1時間30分) 着後、ソウル(仁川)空港にて乗り換え 空路、アメリカ・シアトルへ(所要時間9時間45分)</p> <p>-----日付変更線通過-----</p> <p>到着後、アメリカ入国手続 専用車にて日本語ガイドとシアトル市内へ T-MOBILE PARK 見学 スターバックス本社 見学 シアトル航空博物館 見学 博物館内レストラン内にて昼食 シアトル水族館 見学 イタリア料理レストランで夕食 シアトル地区のホテルへ (シアトル泊・スプリングヒル スイーツ)</p>
3/26 (木)	シアトル (アメリカ) レドモント (アメリカ) シアトル (アメリカ)	9:00 18:00	<p>ホテルにて朝食 ワシントン大学 訪問 現地学生と交流・キャンパスツアー 学生街アジア料理レストランにて昼食 マイクロソフト・ビジターセンター 見学 ワシントン州日本文化会館 座学・見学 戦中・戦後の日系人と米国の交流史のレクチャーと 会館見学 シアトル地区のホテルへ(ホテル内で夕食) (シアトル泊・スプリングヒル スイーツ)</p>
3/27 (金)	シアトル (アメリカ) ホワイトロック (カナダ)	8:30 15:00 17:00	<p>ホテルにて朝食 シアトル・ダウンタウン見学 スターバックス1号店訪問 パイププレイスマーケット・ガムウォール 散策 ボーイングフューチャーズスタジアム・エバレット工場訪問 ハンバーガーの昼食</p> <p>陸路でカナダの入国審査 ホームステイ予定地ホワイトロックへ 現地学生とホワイトロックの街(ピアやピースアーチ/ 米加国境)などを散策後、ウェルカムレセプション 17:00 ホストファミリーの送迎にてそれぞれのファミリー宅へ ホスト宅にて夕食 (ホワイトロック泊・ホームステイ)</p>

月日	地名	現地時間	スケジュール
3/28 (土)	ホワイトロック (カナダ)	10:30 17:05	<p>ホスト宅にて朝食後、集合場所へ カナダ側学生アテンドによる終日英語体験プログラム 北米先住民伝統工芸であるドリームキャッチャーの制作 アテンド学生と昼食 スポーツアクティビティ 5ピンボウル セミアムショッピングセンターにてアテンド学生と トレジャーアドベンチャープログラム</p> <p>プログラム終了後、各ホストの送迎でホスト宅へ ホスト宅にて夕食 (ホワイトロック泊・ホームステイ)</p>
3/29 (日)	ホワイトロック (カナダ)	7:45 17:10	<p>ホスト宅にて朝食 ホストファミリーの送迎にて集合場所へ アテンド学生と共にスクールバスにてバンクーバー エクスカーションツアーへ ダウндаウン(車窓)・バンクーバー五輪聖火台 見学 スタンレーパークでトータムポール 見学 プロスペクト展望台 見学 グランビルアイランド散策・昼食 ブリティッシュ・コロンビア大学キャンパスツアー ホストファミリーの方々と集まってお別れパーティー ホストファミリー宅で最後の夜を (ホワイトロック泊・ホームステイ)</p>
3/30 (月)	ホワイトロック (カナダ) バンクーバー 国際空港 着 バンクーバー 国際空港 発	10:00 11:30 14:30	<p>ホスト宅にて朝食後 ホストファミリーの送迎にて集合場所へ 専用車にてバンクーバー国際空港へ</p> <p>空路、仁川空港へ(所要時間11時間20分)</p>
3/31 (火)	仁川空港 着	17:50	<p>-----日付変更線通過----- 仁川空港着後、韓国入国手続き 空港近郊ホテルへ (仁川空港近郊泊・ベストウェスタン)</p>
4/1 (水)	ホテル 仁川空港 発 福岡空港 着 時津町 着	5:30 8:00 9:25 12:20	<p>福岡空港へ(所要時間1時間30分) 福岡空港到着後入国手続、通関後 専用車にて時津町へ 時津町役場着</p>

月日	時間	場所	内容
事前説明会 令和7年12月5日(金)	19:00-21:00	時津町役場 本庁舎 5階中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行概要説明 (株式会社リベルプラン) アメリカ、カナダの概要 行程概要(予定) 滞在中の注意事項 旅行参加申込書 18歳未満の旅行同意書など ・事務連絡 自己負担金、提出書類について パスポート申請について 携帯電話について 今後のスケジュールについて
第1回事前研修会 令和8年1月26日(月)	19:00-20:30	時津町役場 第2庁舎 2階中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・アイスブレイク ・チャレンジ目標の設定 ※全てALT(ロイ・ジョバンニ)参加
第2回事前研修会 令和8年2月16日(月)	19:00-20:30	時津町役場 第2庁舎 2階中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク ・英会話(マナーについて) ・ホストファミリーへの挨拶文・お礼文 ・海外生活における質問 ※全てALT(スティーブン・エリイ)参加
第3回事前研修会 令和8年3月11日(水)	19:00-20:50	時津町役場 本庁舎 5階中会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・経営学と企業の研究 (株式会社リベルプラン) ・行程表の説明 (株式会社リベルプラン) ・事務連絡 出発当日(壮行会)の案内 旅のしおりの説明 (毎日の日誌、お金の管理など) 移住冊子配布(英語版・日本語版) 現地での携帯電話使用について 水分補給について

派遣生徒・引率者

Students and Accompanying



壮行会

時津町役場

第二庁舎

Togitsu



一人一言現地での目標を
発表しました



家族の見送りのもと
出発しました

25th, Mar, 2026

アメリカ

T-モバイルパーク

Seattle



アメリカ

スターバックス本社

Seattle



スターバックス本社を
見学しました

歴史ある赤レンガ
造りの建物です

25th, Mar, 2026

アメリカ

航空博物館

Seattle



ボーイング社や航空機産業の歴史、当時使われていた工具などの展示を見学しました

アメリカ

シアトル水族館

Seattle



26th, Mar, 2026

アメリカ

ワシントン大学

Seattle



桜が満開でした



現地学生が大学内を案内してくれました

アメリカ

ワシントン大学

スザロ図書館

Seattle



大学内にあるスザロ図書館は、とても美しかったです

26th, Mar, 2026

アメリカ

マイクロソフト社

Seattle



最新機器も体験できました



みんな興味津々です

アメリカ

ワシントン州日本文化会館

Seattle



日系アメリカ人の歴史
を学びました



普段入ることができない
茶室にも入らせてもらいました

27th, Mar, 2026

アメリカ

スターバックス1号店

Seattle



ドリンクの注文にも挑戦！

積極的に質問しています

アメリカ

パイクプレイスマーケット

Seattle



パイクプレイスマーケットへ行き、
日本のマーケットとの違いを見学しました

27th, Mar, 2026

アメリカ

ボーイング社

Seattle



アメリカ

昼食はハンバーガーを

Everett



アメリカといえば！
ハンバーガー！

みんな完食でした

27th, Mar, 2026

カナダ

ピース・アーチ

White Rock



散歩しながら英語で交流



みんないい笑顔♪

カナダ

アメリカとカナダ国境

White Rock



現地学生とたくさん
写真を撮りました



アメリカとカナダの国境を
一足で跨いでポーズ

27th, Mar, 2026

カナダ

カトリックスクール

White Rock



3日間一緒に過ごす現地学生です



27th, Mar, 2026

カナダ

カトリックスクール

White Rock



とてもフレンドリーに迎えてくれました
3日間のホームステイ生活が始まります♪



28th, Mar, 2026

カナダ

サリー図書館

White Rock



現地学生とドリームキャッチャー制作



英語で教えてもらいながら上手にできました

28th, Mar, 2026

カナダ

サンドキャッスルボウルバー White Rock



午後からは5ピン・ボウリングで交流

体を動かしてリフレッシュ

カナダ

セミアムショッピングセンターWhite Rock



運動後には現地のショッピングセンターにて、
トレジャーアドベンチャー プログラムに挑戦しました

29th, Mar, 2026

カナダ

五輪聖火台

Vancouver



黄色いスクールバスで
エクスカーションツアーへ！

五輪聖火台も見学しました

カナダ

スタンレーパーク

Vancouver



トーテムポール前で
集合写真

バンクーバーの景色を
一望できます

29th, Mar, 2026

カナダ

ブリティッシュコロンビア大学 Vancouver



カナダの大学ランキング上位のUBCを見学

カナダ

カトリックスクール

White Rock



フェアウェルパーティー
アテンド学生へ感謝を伝えます

現地学生のみんな
3日間ありがとう！

初めての海外

北野 蒼馬

海外は全て初めてだった。初めての空港。初めての飛行機。初めての出国審査、入国審査。全てが初めてだった。

アメリカ初日、飛行機から降りた瞬間、日本じゃ無いとわかる匂いだった。アメリカで1番印象に残っているのはパークプレイスマーケットだ。自分が知っている日本のマーケットとは全く違かった。だいたい同じものを売っている印象があったが、アメリカは肉、魚、服、飲み物全てがあった。そこにはスタバも流行りのものもあり、人がたくさんいた。もう一つ印象に残っている場所はワシントン州日本文化会館だ。日系人の歴史と文化を学んだ。そこには和太鼓や茶道や武道をしていた人がいた。しかも日本人だけではなく、現地の人もしていてとても驚いた。

しかし、自分はアメリカよりカナダの方が強い印象だった。カナダについてすぐに現地の学生と会った。僕たちのバディをしてくれたのはジャックとベイビアだ。カナダで1番の思い出は、一緒に5ピンボウリングをしたことだ。ボウリングは意外と難しく、なかなかうまくいかなかったが楽しかった。他にもトーテムポールがたくさんあった。自分が知っているトーテムポールもあり、とても背の高いものや低いものもあった。ホームステイでは、家族の人といろいろな会話をして過ごした。どこに何があるのかや、どんなことをしたらいいですか、などを全て英語で伝えるのは難しいことだった。しかし、自分の知っている単語と一緒にいった仲間と協力して会話をすると、通じ合うことができた。

今回の派遣で、言語が違っててもよく聞いて知っている単語で返せばちゃんと通じ合えるということがわかった。最初英語だけで会話をすることを目標にしていたのだが、無事目標を達成することができた。この経験を活かして、海外の方が困っていたら英語で助けていきたいと思った。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

海外派遣を終えて

北野 颯人

僕は海外へ行く事の全てが初めてでした。僕は行けると決まった時からワクワクが止まりませんでした。実際に行ってみると想像以上の凄さ、大きさに圧倒されたし、驚き、感動でいっぱいでした。

僕はまず文化の違いを感じたいと思い臨みました。信号機が縦、歩行者信号は渡れる時はオレンジ色で渡れない時は白色で手のマークでした。信号機が紐にぶら下がっている所もあり「落ちないかな」と心配になりました。建物は大きく広くお洒落でした。レンガを用いて建てているものを多く見かけました。特にスターバックス本社では大きな建物にたくさんのレンガが使われていて雰囲気がかっこよかったです。お店では、店員の数がとても少なかったです。日本ではレジの人、商品を並べる人、接客の人などいますが、広いお店でも少人数しかいませんでした。日本はサービスが充実しているのだと改めて感じる事ができました。また、食べ物では1つ1つが大きく量も多かったです。僕は少食なので、ホストファミリーが作ってくれたものも残す事があり、申し訳ない気持ちになりました。でも「sorry」と伝えると「OK! OK!」と優しく返してくれました。

そしてもうひとつは、交流できる人とのコミュニケーションを大切にしたいと思い臨みました。考えを伝える為に調べたり、身振りなどでとにかく何とかして伝えようと努力しました。相手の人も言葉を言いかえたり、表情をみながら伝えようとしてくれました。しかし、伝える事ができず戸惑った時がありました。カナダの学生と一緒にドリームキャッチャーを作った時です。次にどうすればいいかわからず、何と聞いたらいいかわかりませんでした。うまく伝える事はできませんでしたが、優しく手伝ってくれました。まだまだ英語を勉強しないとないと思いました。

僕はこの海外派遣でたくさんの事を体験し学びました。僕の将来の夢は教師になる事です。教師になれば、今回の海外派遣で見て、聞いて、体験した事を生徒たちに伝えたり、自分の仕事に活かしたいと思えます。この海外派遣に関わってくださった方々、現地で自分たちに優しくしてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

same

吉良 優希

全然違ったけど、違わなかった。それが、この留学を経た私が何より報告したいことだ。私の留学での一番の目標は、「当たり前を粉々にする」ことであった。私は将来、哲学者として海外大学で学ぶことを当面の目標としている。そのために私は、「タウマゼイン」を欲していた。これは、哲学の源泉となる「驚き」のことである。何かを問うためには、驚き、疑う心が欠かせない。しかし、それを知識として知っていても、染み付いた常識を疑うのは至難の業だ。だからこそ、全く違う世界へ身を投じることで自らの常識を壊し、自分を組み換えてみたかったのだ。

そんな意気込みを、緊張で震えながらも壮行会で豪語した後、長いフライトを終え、旅の高揚に包まれながら、アメリカの空港に足を踏み入れた。その瞬間の、期待と不安が入り交じった胸中は言葉に出来ない。温暖湿潤な日本とは違うカラカラとした空気にすら感動し、なにもかもに大興奮だった。

この留学で私の当たり前が如何に壊されていったか、二つの視点で語らせて頂きたい。

まず一つ目は、上陸後わずか五分の出来事だった。アメリカの、トイレである。無粋な話題と思われるかもしれないが、なにしろ私の脳内にこびりついて離れないことなので、ぜひ語らせてほしい。Americanなトイレの仕切りは、上部と下部に空洞がある。隣の人の足も見えるほどで、プライバシーの欠片を二、三個集めたような感じである。さらに、とにかく流す勢いが強い。初めてトイレを利用した時、その水圧に驚愕したものである。水回りには期待するなど何度も聞いていたし、知識としては頭の中にあっただが、実物を見てみると、その覚悟を上回る驚きが詰まっていた。上陸後5分で、常識を壊すどころか水流に流されてしまったのである。

二つ目は、人の優しさである。カナダのホストファミリーのご飯はとてもおいしかったが、やはりビッグサイズ。朝が苦手な私は、一度どうしても食べられなくて、申し訳なさで小さくなりながら「sorry, I am full.」といいにいったことがあった。そのときには、ホストマザーが「It's OK.」と伝えてくれて、すこし気持ちが軽くなった。また、ワシントン大学を訪問したときに仲良くなったある学生さんは、日本文化に興味津々で、たくさんお話しした。抹茶とお茶の違いを聞かれたときには困ったが、写真や知りうる限りの英語を駆使して、なんとか伝え切れたと思う。途中、「日本人は遠慮しすぎるから、嫌いなことは嫌いって言うといいよ」と、その言葉通り直接的に伝えられたときには、その優しさと、抜けきらぬ自らの日本人らしさに思わず笑ってしまった。

このように、アメリカ・カナダと日本は、大きく違っている。食事のサイズも、人との交流の礼儀も、トイレの形まで。それはまさしく異文化と呼べるものであり、当初の目論み通り私は当たり前を粉々にされ、自らが述べてきた言葉に実感を伴わせることができるようになった。しかしそれと同時に、出発前の考えをひっくり返すような気づきもあった。それが、冒頭で述べた「全然違ったけど違わなかった」という、壮行会に参加していたときの私が聞けば、拍子抜けすること間違いなしの結論である。確かに文化は違うし、言語も違う。だが、向こうに行ってみても私は私であり、そこにいる一人一人も、その一人一人に違いなかった。文化は違っても、気候が違っても、それぞれが人として生きているという点においては、みな

「same」なのだ。あまりにも当たり前で目論みはずれのこの事実を、私はやっと自らのものとすることができた。これこそ、この留学で得た一番の「タウマゼイン」であろうと思う。

このような機会を与えて下さった時津町、ならびに御協力いただいた職員の皆さま、家族に感謝を表し、結びとする。

海外派遣で学んだこと

田中 丈一郎

僕が「海外派遣事業にいつてみたい！」とおもった一番の理由は、海外の文化を日本の文化と比べてみたいと思ったからです。それに、自分の英語力でどれくらい海外の方と対話ができるのかということを確認したいという思いもありました。

まず、アメリカではスターバックスの一号店で限定の豆やグッズを買ったり、Microsoftのビジターセンターで最先端の技術を体感したり、様々な場所を回りました。でも、特に印象に残ったのは、アメリカのホテルでの些細な出来事です。ホテルの朝食でコンベアトースターを使っていた際、パンが奥に挟まってしまい困っていました。すると、通りかかった外国の方が気づいて、近くにあった長い棒を使って取り出してくれました。交わした言葉は「Thank you.」と「No,problem.」のたった2言だけでしたが、いまでもとても心があたたかくなったのを覚えています。文化や言語が違う中でも人の優しさは変わらないことを実感しました。

カナダではホームステイや現地学生との交流をしました。ホームステイでは食事の前にみんなで手をつないで祈ったり、夜に教会に行ったりと普段とは違う、とても貴重な体験をしました。また、英語でコミュニケーションを取ることは自分の想像よりも難しく、伝えたいことが伝わらないことや、何を言っているのか聞き取れない場面が多くありました。しかし、そのたびに身振り手振りやより簡単な単語を使って根気強く、伝えようとしてくれました。そのおかげで、僕も少しずつ英語を理解でき、相手の方ともとても仲良くなることができました。

僕は、今回の海外派遣で2つのことを学びました。1つ目は、自分が知っている「つもり」でいた海外の文化はほんの一部で実際に行くと様々な特徴や違いがありました。だから、これからももっと英語を学んでさらなる海外の文化を学びに行きたいと思いました。2つ目はそれは苦手は成長するための材料だということです。実は僕は人とのコミュニケーションがとても苦手で、「この機会を活かしてそれを克服したい！」と思っていました。帰ってきた今もそれに対する苦手意識はなくなってはいません。でも、苦手があるということはまだまだ自分は成長できるというしるしなのだと思いました。振り返ってみると、旅先でのすべての経験が新鮮でした。そしてたくさんの人、モノ、事に触れ学ぶことができました。この経験は間違いなく僕の一生の宝物です。

最後に、私達にこのような機会を与えてくださった時津町役場の皆様をはじめとする関わってくれたすべての方々に心から感謝したいと思います。この経験を無駄にすることなく学んだことをこれからは活かしていきます。

出会いが教えてくれたこと

堂尾 莉愛

海外で過ごした7泊8日は、私の13年間の人生の中でも特に多くの「出会い」に恵まれた時間でした。そこで、私が恵まれた「出会い」を紹介します。

まず、私が日本を出て初めて恵まれた「出会い」は、人との出会いです。8日間ずっとガイドをしてくださった辺見さん、TA生のみんな、ホストファミリーのほかにもたくさんの方々と出会いました。初めての海外で緊張していた私たちを温かく迎えてくださいました。ホームステイ先では、どんな暮らしになるのか不安だったものの、ホストファミリーと一緒にチェスやピザづくり、ピアノの演奏会を通して楽しい暮らしをすることができました。ホワイトロックのビーチで夕日を眺めながら、ファミリーのみんなとアイスを食べたのは忘れることのない大切な思い出です。TA生のみなさんは、私の拙い英語をよく聞き取ってくれてたくさんのお話をしてくださいました。一緒にショッピングやドリームキャッチャーづくり、最後のお別れ会にはたくさんプレゼントをくださり、今でも連絡をとりあっている大切な友だちです。

次に、私が恵まれた「出会い」は、文化との出会いです。アメリカ、カナダには日本とは違うたくさんの文化がありました。まず、一番最初に日本との違いに驚いたのは食文化です。シアトルで食事をさせていただいたイタリア料理のお店では、日本では考えられないほどの量のスパゲッティが出てきました。日本を普通だと思っていた自分の感覚が広がっていくのを感じ、とても嬉しく感じました。他にも私が出会った文化があります。それは、コミュニケーション文化です。アメリカ、カナダでは、どのショップの店員さんも、「How are you?」や「Welcome to America!」と明るく気さくに話しかけてくれました。日本とは違う人の温かさを感じ、コミュニケーションをどんどん取れるようになりました。最後に出会ったのは、その国特有の文化です。カナダでは、ドリームキャッチャーづくりや、5ピンボールを通して、大切にされている伝統や、親しまれているものがたくさんあることがわかりました。日本にも、たくさんの文化がありますが、アメリカ、カナダ特有の文化に触れることで、歴史を大きく感じもっと深く知りたいと思えるようになりました。

最後に私が恵まれた「出会い」は、自分の将来の目標です。7泊8日の海外での生活を通して、異国というものが自分の中で身近なものになりました。今まで、将来は日本で暮らすことを当たり前だと思っていた私は、海外で将来過ごすことに憧れを抱いています。海外の景色をみて、自分の可能性が広がっていったことが、今回の最大の出会いです。

このように、私はこの海外派遣を通して様々なことを自分の目で確かめ、自らの目で感じることができました。そして、私は将来海外で暮らせるような大人になりたいです。この海外派遣を通して感じた感情を糧にこれからたくさんのことを努力していきたいです。このような機会をくださった時津町みなさま、たくさん準備を手伝ってくれた家族のみんな、いろんな経験をさせていただいた現地の方々、私達にずっと付き合ってくくださった引率者の方々、そして、一緒に学びを深めてくれた仲間みんなにたくさんの感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。

Change my life

堀川 好杏

約10時間ほどの長いフライトを終え、アメリカ合衆国、シアトルに着きました。まず1番最初に待ち受けていたのは、入国審査でした。私は1人で海外に行ったことがないので、緊張しましたが、無事に入国することができました。

1日目は主に観光をしました。アメリカの飛行機や、建物、多種多様な生物を見ることができました。時差があり、1日目の夜は少し体調がすぐれませんでした。次の日には回復しました。

2日目はワシントン大学の学生との交流や、日系人の歴史を勉強しました。ワシントン大学は、とにかく広く、自然豊かでした。そして、日系人の歴史では、その当時の状況や環境を知ることができました。夜はみんなでタコスパーティーをして楽しかったです。

3日目は午前最後のシアトルを満喫し、昼食後、カナダへ入国しました。そして、カナダの学生と合流し、アメリカとカナダの国境を超える体験をしました。私は、歩いて国境を超えるということをしたことがなかったので、とても新鮮で良い経験となりました。夜は、ホテルではなくホームステイ先で過ごしました。初日でとても緊張し、うまく喋れていなかったと思うけど、ホストファミリーは暖かく迎え入れてくれました。

4日目は北米先住民族伝統工芸のドリームキャッチャーを制作しました。英語での説明だったので難しかったけど、学生さんのフォローもあり完成させることができました。その後、5ピンボウリングを現地の学生さんとして盛り上がりました。このプログラムのおかげで学生さんとの仲を深めることができました。

5日目はブリティッシュ・コロンビア大学キャンパス訪問をしました。ここの大学もとても広く、自然豊かでした。その後も見学や移動が続き、カナダの学生さんや派遣生徒との会話ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。まだまだたくさんの時間を過ごしたかったけどここで3日間お世話になった、カナダの学生さんとお別れしました。とても名残惜しかったです。そして、ホストファミリーとの最後の夜を楽しみました。

ホストファミリーとの朝食後、この3日間の感謝を伝えました。そして、最後のお別れをしました。初め、ホストファミリーからの質問や会話が聞き取れなかったのですが、3日間で多くの言葉が理解できるようになりました。

韓国での一泊を過ごし、時津町へ帰ってきた時、嬉しさや安心感を感じる一方、アメリカやカナダで出会えた人たちに簡単には会えないという悲しさも感じました。

帰ってきて1週間ほどが経ちましたが、あのアメリカやカナダで過ごした日々は夢のようだったと感じます。しかし、あの1週間での経験は今までの私の考えをいい意味で変えてくれました。ガイドの辺見さんが、「Change your life」この1週間の経験があなたの人生を変えるでしょう。と言ってくれました。私は、この留学後のことはなにも考えていませんでした。しかし、辺見さんの言葉を受け、私だけの1回きりの人生をより良いものにしたいと思いました。このようなことを実現させるには、私1人だけでなく、たくさんの人の協力が必要になると思います。だからこそ、人が人と理解し合うために1番必要な「言語」をもっと勉強したいと思いました。そして、またいつか、自分の力でアメリカやカナダに行きたいと思いました。

このような機会をくださった時津町の関係者の皆様に感謝します。本当にありがとうございました。

海外派遣を通して学んだこと

松田 ひなた

今回のアメリカ、カナダへの海外派遣では、いくつもの貴重な経験をさせていただきました。日本で得る情報だけでは知ることのできなかつた海外の文化に直接触れ、身をもって学べる機会を大人になる前の今の私に与えていただけたこと、海外派遣に携わってくださった時津町の皆様、引率してくださった方々や現地で関わってくださった方々、一緒に過ごした派遣生徒のみんなに心から感謝しています。

海外派遣へ出発するしばらく前から私は心身の調子を崩してしまい、1日中起き上がれないような日も多く、自分はもしかしたらこれから長い間何も出来ないのかもしれない、と不安で毎日落ち込んでいました。しかし、学校の先生方や友人、私の成長を見守ってくださっている周りの方々、家族、たくさんの応援があって諦めたくなかつた海外派遣に参加することができました。そして海外の企業や文化、歴史などを実際に見て、知り、学んで無事に帰国しました。報告したいことが山ほどあります。

まずはアメリカやカナダ、飛行機乗り継ぎで立ち寄った韓国にはそれぞれその国独特の雰囲気があって、でも、どの国でも日本語で話しかけてくださる方がいたということです。外国で自分の国の言葉を話してもらえると、とても嬉しく感じたので、これは忘れないように覚えておき、もしも自分が日本で海外の方に出会ったら、なるべくその方の国の言葉で会話するようにしたいと思いました。その為に、今学んでいる英語だけではなく、他の国の言葉の挨拶や簡単な受け答えも覚えていきたいです。

次に報告したいことは、アメリカやカナダにある日系人の歴史や足跡についてです。アメリカの日本文化会館では戦争と追放、そこからの回復や、日本の文化や伝統が遠いアメリカの地でどのように守られてきたかを知りました。また、カナダのバンクーバーでも、ホストファミリーの家庭で夕食にとっても美味しい焼きそばと味噌汁を作っていたいたり、スーパーにも日本の食品がたくさん置いてあったりなど、日本の文化が親しまれているように感じました。帰国後に調べてみると、カナダには戦前、リトル東京と呼ばれた日本人街があったそうです。私の生まれるずっと前に海を渡った日本人が残した文化が、歴史となって遠い地に残っていることを実際に体感できたことは、とても貴重な経験になったと思います。

他にも報告したいことはたくさんありますが、全てを上手くまとめて書き出せそうにありません。豊かな自然もありながら大企業、市場、博物館、カフェなど都会的な建物が立ち並ぶ未来的なシアトルの街も、都市から見える山と海の大自然、先住民族の歴史と神話を伝える素敵なトーテムポールがあり、暖かく迎えてくださったホストファミリーに出会えたバンクーバーの街もどちらもとても素敵でした。

海外派遣を終えて、今以上に英語の学習に力を入れることはもちろんですが、世界の歴史や文化について積極的に調べ、自分なりの見解を探して、深く知っていこうとも思うようになりました。このような機会をいただけて、本当に良かったです。ありがとうございました。

この海外派遣事業を通して

丸山 楓恵

初めての海外ということもあり、最初、日本を出発して、カナダに着いたとたん、わくわく・ドキドキ・不安という胸の高鳴りが一気にこみあがってきました。実際に英語で会話ができるのか、事故などなく無事に日本に帰ることができるのか、などの気持ちでいっぱいでしたが、私が想像していた以上でした。

初日に行ったシアトル航空博物館では、スタッフの方に「Hello!」というと、笑顔で「Hello!」と返してくれ、また、「How are you?」と、優しく話しかけてくれました。特に、スターバックス1号店では、理念でもあるJOY「楽しむことを力に」の通り私たちが楽しめるように、場を盛り上げながら話しかけてくれて、第3の場所にふさわしい雰囲気でした。そのコンセプトが日本のお店でも継承されていることにも感動しました。そんなたくさんの優しい人たちのおかげで、初めての海外で楽しく英語で会話をすることができました。

3日目から5日目では、ホームステイ先の家族と一緒に過ごす日の中、最初はとても緊張しました。また、どんな食事が出るのかも不安でした。しかし、毎日毎食のご飯がとってもおいしく、好き嫌いが多く私でも食べることができました。そして、私のホームステイ先のホストマザーはピアノの先生で、私もピアノを習っていることを伝えると、「弾いてみてよ!」と言われ、ドキドキしながらピアノを弾きました。また、ホストマザーも素敵な曲を弾いてくれて、楽しい音楽の時間を過ごすことができました。音楽は、世界共通の楽しみなのだと感じ、ピアノを続けてきたことを嬉しく思いました。

私は、この海外派遣という事業を通して、日本との違いを多く見つけることができました。その中でも特に、「生活面」の違いに驚かされました。

海外のお風呂やトイレの衛生面、また食事面など日本と違う点が多くあります。例えば、食事です。日本では、主食とされるご飯が毎食1回は必ず出ますよね。しかし、アメリカやカナダでは、朝と昼はほぼパン、夕食もピザやラザニアなど、メイン料理だけという食事でした。また、トイレでは外のトイレに行くと、ドアの下が開いており、驚きました。一週間海外で過ごしていくにつれて、少しずつ慣れていきましたが、日本との文化の違いを知る一週間でもありました。

今回多くのことを学ぶ中で、さらに違う国の文化などにも触れてみたいと思うようになりました。そして、積極的にコミュニケーションをとることの大切さを学びました。いつか海外に行った際は、派遣で学んだことを活かしていきたいと思いました。本やテレビ・スマホで知ることも大切ですが、実際に体験し触れ合うことの大切さを実感した8日間でした。行った場所・見た景色・出会った人たちとの思い出は私にとって一生忘れられない宝物です。これからも様々な事に挑戦する気持ちを大切にしながら、成長していきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

海外派遣事業を通して

造酒 あゆみ

私は海外派遣の面接で、「この派遣を通して本やネットでしか知れなかった海外を目や耳で感じて、生の海外の良さを知りたい」と言ったけど、実際に行ってみると、文化や価値観の違いを目の当たりにし、たくさんの刺激を受け、自分自身がもっと成長しなければいけない！という思いが強くなりました。

約10時間の長いフライトを乗り越え、アメリカのシアトルに到着しました。シアトルに到着してまず驚いたことは、全てがビッグサイズで日本では見たことのない建物がたくさんあるところです。航空博物館、水族館、ワシントン大学、マイクロソフトのビジターセンター、日本文化会館、スターバックス1号店、パイプレイスマーケットなど様々な場所に訪れました。この場所に共通して言えることは、大きくて優しい人がたくさんいるということです。言語のかべがあってもテンションが似ていたり、おもてなしをしようという現地大学生の心遣いを感じたりし、日本じゃないのに日本にいるような、あたたかさを感じました。私はシアトルを訪問したことで、大事なものは、英語をうまく発音できるかではなく、相手を気遣うことのできる心だということ学ぶことができ、とても貴重な経験になりました。

陸路を越えて訪れたカナダでは、最初に現地学生との交流がありました。私はシアトルのコンビニに行ったときに店員さんに伝えたいことが伝わらず、やるせない思いがあったため、カナダでは発言するだけでなく、身振り手振りで表すなど、自分が伝えたいことがうまく伝わるように工夫しました。そのおかげで、現地学生のことをたくさん知ることができました。その後、ホストファミリーと初対面しました。私たちのホストファミリーは、明るく陽気な方でした。私たちは夕食を食べた後、ホストファザーとチェスをしました。私たちが不利な状況になったとき、「それはだめだよ。」とこつを教えてくれて、そのおかげで私たちは勝つことができました。ホストファザーが勝たせてくれたのです。日本と違うところはたくさんあるけれど、誰かを喜ばせるための心遣いは日本と同じで、とてもすてきでした。あたたかくて親切で緊張や居心地の悪さなど感じない、最高の3日間でした。

私は、この派遣を通して、「相手が話しかけてくれないから話さない」のではなく、「自分から話す」ことが大切で、そのためには勇気を出して前へ進む心の強さが必要だと感じました。私は、人と向き合うときに、気にしすぎてうまく関われないことがよくあります。今回の派遣で、その弱さと向き合い、乗り越えようと努力することができました。

最後に、この派遣をサポートしてくれた時津町の皆様、そして9人のみんな、本当にありがとうございました。これからも学んだことを生かし、どんどん成長していきたいです。

海外での学びと将来の夢

矢野 優里

私はこれまで自分の将来についてあまり考えたことがありませんでした。しかし、この海外派遣事業はそんな私に大きな変化を与えてくれました。世界的な大企業・大学の見学、皆と眺めた北米の美しい景色など、海外での体験は今でも鮮明に思い出せます。その中でも特に印象に残っているのは、現地の方とのコミュニケーションの楽しさです。

国際線のCAさんと話したのがこの派遣で最初の英語での会話で、初めはその速さに驚きました。加えて、次々と出てくる単語をほとんど理解できなかったので、知っている単語を繰り返したりジェスチャーを交えるなどして意思疎通を図りました。思っているよりも単語や動きだけで気持ちは伝わるのだとわかり、もっと話したいという意欲が湧いてきました。

アメリカの様々な場所を訪れ、それらのスケールに圧倒されたあとはついにカナダに入国し、バディの学生の方と散策をしました。道中、お互いの日常や好きなことなどを質問しあったことで日本との違いを感じることができ、とても興味深かったです。学校生活の話になり、バディの方が「My school ends at 2 pm.」と教えてくれた際、

「Very early!」と反応すると「Yes! How is your school?」と嬉しそうに返してくれました。思ったことをそのまま口に出してリアクションをすることで、お互いの考えや気持ちが汲み取りやすくなって会話も弾むということに気づくことができました。

しばらくしてステイ先のご家族と対面すると、とても温かく迎えてくださいました。コミュニケーションが上手くいかない場面もあったものの、常に私たちのことを気遣ってくれていたのが楽しく話すことができました。ホームステイを通して、会話に最も必要なのは相手の気持ちを考えようとする姿勢だと分かりました。また、食事や生活の面でも日本との違いを知ることでできる場面が多くあり、貴重な学びを得ることができました。

私は、この海外派遣事業に参加してよかったと心から感じます。この事業に参加する前は将来についてあまり深く考えることはありませんでした。けれど、今は違います。人と関わることの楽しさを改めて感じたことで、将来は世界中の人々と直接関わることでできる職業に就きたいと考えるようになりました。そのために今は、英語の学習を頑張りたいと思います。この経験を自分の成長につなげていきたいです。この事業に関わってくださったすべての方々に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

令和7年度未来に輝けとぎつつ子海外派遣事業報告書

発行

令和8年4月
時津町 政策財務課
〒851-2198 時津町浦郷274番地1
TEL 095-882-3916
HP <https://www.town.togitsu.nagasaki.jp/>

